

## 「教育実習の感想」

[市立 N 中学校 保健体育] 氏名 : H.A

私は教育実習を行う前は、教育実習は新鮮なもので、すごく興味を持ってくれて、生徒たちとすぐに仲良くなれると思っていました。しかし、初日を迎えて想像とのギャップに驚きました。「あまり話しかけてくれない…」私が担当させていただいたクラスは 3 年 1 組だったので、教育実習を迎えることも 3 年目で慣れているのかと考え、生徒たちと仲良くなるために 2 日目からは積極的に話しかけて、3 日目で 39 人クラス全員の名前を覚えめました。すると、不思議なくらい生徒との距離が縮まり始めました。1 人と仲良くなると、その子の周りにはいる子も話しかけてくれるようになり、それが徐々にと広まっていきましたが、やっとみんなと話せたかなという時にはもう最終日でした。最後の日に、担当クラスの担任の先生が、「最初、生徒たちは良く観察していて、教育実習生だからではなく、新学期の時も先生やクラスメイトのことを観察し構えているので、先生がどれだけ心を開いていけるかで、クラスの雰囲気は変わってくる。」と仰っていました。今思うと最初の数日は、生徒たちから観察されていて、生徒にも緊張感があったのだらうと思いました。実習を通して、生徒たちの「観察力」は鋭いものだと感じました。休み時間に授業の話等を聞いてみると、好きな先生、嫌いな先生というワードをよく耳にしました。生徒たちはどんなところを見て感じて、好き、嫌いを決めているのか、生徒たちの話や先生たちの様子を通して考えました。私が考えた点は、注意の仕方です。生徒たちが好きという先生やきちんと話を聞く先生方は、共通して明確で端的に注意をされます。「次の説明をするので、静かにしなさい。」「後ろの人が見えなくなるから座りなさい。」等、注意されている理由がわかる言い方でした。生徒たちが注意を聞かないときは先生が「しゃべらんといて」「早く座って」と言っていて、やっと生徒たちが話を聞けばそこから注意した理由や原因を話始めました。私が生徒の立場であれば、先生のがままや上から指示をされているように聞こえるのではないかと感じました。生徒たちは聞いていないようで、実は先生たちの一語一句を聞いている、些細な事まで気にかけていることを学びました。その分、先生が誠実に熱心に向き合えば、必ず生徒に想いは届くと感じました。私は 3 週間、どんなときも楽しみながら行動するように心がけました。そうすると、生徒たちからも「授業楽しかった!」「先生のおかげで、学校が楽しいと思えた!」と言ってもらえました。こんな未熟な教育実習生であっても、何か影響を与えることができたと思うと感慨深い思い出となりました。それとともに、教員は、勉強を教えるだけでなく、人の心を動かし、自分の心も動かされる、心のこもった職業だと感じました。この実習での楽しかった思い出を忘れることなく、明るく前向きな印象を与える教師を目指します。